

お知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究では通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さまお一人お一人から同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ等がありましたら、下記の「お問い合わせ」へご照会下さい。

【研究課題名】

小児における Chang 法が脳血流分布に与える影響の検討

【研究機関】

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター

【研究責任者】

柴山 明範

【研究目的】

核医学検査の一つである脳血流検査は、多くの補正を行って画像が作られます。放射線が頭蓋骨を通過する際、放射線の数が少なくなる現象が起こります。そのまま画像にすると脳の中心部の血流があたかも低下しているように画像が作られます。その中心部の血流を上げる処理を減弱補正と言います。減弱補正には CT を使った補正 (CTAC 法) と使わない補正 (chang 法) の 2 つがあり、一般的には CT を使わない補正で行っています。当院も同様です。CT を使った補正はより正確な補正が出来ると言われていますが、CT の被ばくが余分にかかり多くの病院では採用されていません。しかし CT を使わない補正でも頭蓋骨の厚さや密度で脳血流分布の結果が変わるといったデメリットが存在します。頭の頭蓋骨の厚さや密度は大人と子供で異なるので、同様の補正をしても同じ結果とはなりません。大人での補正は今までの知見でどのような画像が出来るかは分かっていますが、子供においてはどのような画像が出るかの研究や論文はありません。今まで大人と同様な画像が出ていると仮定して画像を診て来ました。今回の研究は CT を使わない補正が、子供の画像にどのような影響を及ぼすかを解明し、正しく画像診ることが出来るようになる事を目的としています。

【研究方法】

2019 年 9 月～2025 年 4 月までの期間で CT 検査と核医学検査を 2 か月以内に通常の診療において撮影した患者を対象とし、大人と子供の群に分けランダムに抽出します。CT を使わないで補正した画像と CT を使って補正した画像の 2 種類を作成します。その 2 つの画像を解析ソフトも用いて両者の補正にどれくらいの差があるかを調べます。大人の差を基準にして子供においてどれ程の差が生じるかを検討します。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は、匿名化しますので、患者様の住所や氏名など個人が特定できる情報が外部に漏れることはありません。この臨床研究の結果を学会や学術雑誌に発表することはありますが、その場合でも患者さまのプライバシーを十分に尊重し、患者さまの個人に関する情報が外部に公表されることは一切ありません。

この研究の対象となる方で「ご自身は研究対象から除外してほしい」と望まれる場合は下記の問い合わせ先までご連絡下さい。なお、いかなる場合にも不利益を受けることは一切ありません。

【問い合わせ先】

〒420-0881 静岡県静岡市葵区漆山 886

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

電話:054-245-5446 内線 PHS 1935 E-mail shibayama.akinori.sx@mail.hosp.go.jp

担当者氏名 放射線科 柴山 明範